

な　ら　大　学

創立120周年特集

写真で見る

大学120年

その2 大正・昭和期

- 大学の取り組み
ちよつと違う教職大学院の教育実習
教員免許状更新講習試行
- ラボ・レター
- 留学生レポート
- ひと・あれ・これ
- 課外活動

夏
2008

奈良教育大学は、この秋に創設120周年を迎えます。現在、記念事業の準備を進めています。日頃の読者の方々のご支援に心から感謝を申し上げます。

前回の「周年行事」は文字通り100周年でしたから、時代が昭和から平成へと移り、平成20年に記念の年を迎えることとなりました。皆さんとともに、この20年間の奈良教育大学の歩みを振り返る機会になればと思います。

本学は、明治21（1888）年の奈良県尋常師範学校の開校を創立の時としています（さらに、その前身となる『寧楽書院』にその起源を遡ることができます）。本学の創立記念日は11月18日と定められています。この日は師範学校の開校記念日ですが、この日は師範学校の開校記念日です。戦後の昭和24（1949）年、師範学校は大学（奈良学芸大学）になりますが、法令上の大学の設立日である5月31日ではなく、11月18日に「奈良師範学校開校60

年記念式」を兼ねて、開学記念の式典が行われています。師範学校から学芸大学への連なりを強く意識した、当時の方々の想いが伝わって来るようです。

さて、最近の20年間で、本学に限らず、国公立の大学の有り様は大きく変わりました。奈良教育大学では、平成7年度に新課程と呼ばれる「総合文化科学課程」を設置しました。当時は今日とは逆に、全国的な教員需要の低迷期を迎えており、教員養成を目的としない課程を設置したのですが、決して消極的な対応ではありませんでした。今で言うところの文理融合型の、奈良の特色も生かした新課程であったと思います。

その後、教育大学を取り巻く状況はますます「悪化」しました。平成10年からの3年間、全国の教育大学・教育学部には、教員養成課程定員の5千人削減に続く

て、平成13年には府県域を超えた再編統合という、2つの荒波が襲いました。『教員の養成は量よりも質だ』ということをつくづく実感したときでもありました。

その荒波を乗り越えて、平成16年4月に国立大学は法人化され、新たな時代を迎えました。各大学は中期目標・中期計画を定めています。法人化5年目の今年は、これまでの実績をまとめるといって大変大切な時期にさしかかっています。と同時に、最近では奈良県を含む大都市圏では、教員採用数の急増期を迎えています。

では、『質より量』の時代になったのでしょうか。そうではないと思います。

今、本学は、教員養成教育の質の向上に正面から取り組んでいます。その先駆的な取り組みのキーワードは、奈良教育大学オリジナルの「カリキュラム・フレームワーク（Curfiet：Curriculum Framework

for Expert Teachers）」です。4年間の学びの成果として、新任教師に求められる目標資質能力基準をあらかじめ示し、学生の皆さんが各授業科目から何を学び、どのような資質能力を身につけたかを自覚しつつ、自ら成長することを目指しています。「大学教員が何を教えたか」とともに、「学生が何を学びどのような力をつけたのか」を明らかにすることが、大学教育の新しい潮流となっています。

そして、今年4月には、四半世紀前に設置された大学院を改組・拡充し、新しく教職大学院（教職開発専攻）を開設しました。修士課程とともに、大学院における高度専門職業人としての教員の養成に向けて出発しました。

創立以来120年を経て、奈良教育大学は名実ともに、新しい時代への船出の時を迎えようとしています。

THE PRESIDENT COLUMN

100周年から120周年まで、20年の歩み



柳澤 保徳
奈良教育大学 学長

3【学長コラム】

100周年から120周年まで、20年の歩み

学長 柳澤 保徳

4【大学の取り組み】

ちょっと違う教職大学院の教育実習

教職開発講座 教授 安藤 輝次

5【大学の取り組み】

修士課程の新たな出発 ～大学院改組～

大学院改組準備委員長 上野 ひろ美

6【大学の取り組み】

地域連携による教員免許状更新講習試行について

免許状更新講習実施検討プロジェクト副座長 藤田 正

7

写真で見る大学120年 その2 大正・昭和期

8【ラボ・レター】

学校現場の課題に応えるために 大学レベルの英語 教育現場に生かせる実践力を 現代の教育事象を社会学する

教職開発講座 准教授 粕谷 貴志

英語教育講座 講師 パーキンス・ロバート

教職開発講座 講師 松井 秀史

学校教育講座 准教授 渋谷 真樹

10【留学生レポート】

ルーマニアでの半年間 アメリカ留学体験記 日本留学の経験 日本での貴重な経験と留学生生活

総合教育課程生涯学習コース 4回生 手代木 丈伸

総合教育課程生涯学習コース 4回生 小野田 奈央

特別聴講学生（フランス・リヨン第3大学） ビリオン ヴァンサン

学校教育教員養成課程教育・発達基礎コース 2回生 ティンティンヌエ

12【ひと・あれ・これ】

想いは必ず伝わる 未熟な縁の下での力持ち

三郷市立三郷小学校 城本 雅司

日本ビー・ケミカル株式会社 正木 祥子

13【課外活動共用施設完成】

広がるサークル活動

学校教育教員養成課程言語・社会コース4回生 文化会会長 旧田 克也

【課外活動】ウインドアンサンブル

サークル活動を通じて学んだこと

総合教育課程 文化財・書道芸術コース3回生 天池 規夫

14【附属校園では】

幼稚園 大学との連携をいかした幼児教育

附属幼稚園 教諭 山本 祐子

小学校 子どもの健やかな成長に向けて

附属小学校 教諭 小畑 治

中学校 ESDの理念を学ぶ教科活動と学校行事

附属中学校 副校長 植村 啓介

16【大学の仲間たち】

コムスジ

自然環境教育センター長 前田喜四雄

表紙紹介

走

この作品は、上部ブロンズの具象形態と、下部木彫の幾何形体で構成されています。ご存知、奈良教育大学の学章は天平雲であり、「天平雲の上を駆け抜ける」というイメージです。

基部の木彫部分は、戦国時代からある日本の家紋「違い角」からインスピレーションを得て立体化しました。設置されているのはR12文美棟エントランスです。エントランスホールは、矩形の窓枠、壁面・床面タイルにも矩形が多用された明るい吹き抜け空間で、彫刻を置くにふさわしく、あえて幾何形体も使って構成されているという点で、この作品がしっくりとなじんでいます。

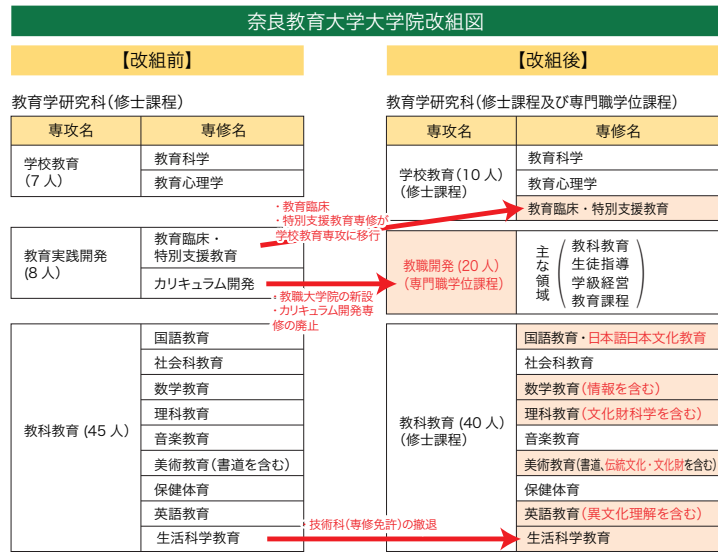
この表紙では、光に向かって走る女性像が、意外なアングルで斜め後方から写真に撮られて、今にも外に走り出て行きそうな勢いです。

折りしも、北京オリンピック開幕の夏。古代オリンピックでは、競技者は全員全裸で走っていたそうです。

【解説】
美術教育講座 教授 西野 慎二

表紙題字 名誉教授
池田桂鳳

大学の取り組み



新たな組織は図のとおり。 が新たな領域を得て出発した専攻・専修である。

新たな組織

平成20年4月より、修士課程が改組された。教職大学院(専門職学位課程)の新設に伴い、新たな出発をしたのである。教育者に求められる力が複雑化・高度化する今日、修士課程もまた新段階を迎えている。教育の理論と実践に関する高度な専門性と実践的指導力を備えた、高度専門職業人が求められているのである。

修士課程の新たな出発 大学院改組

大学院改組準備委員長 上野 ひろ美

修士課程共通科目の展開

一回生全員が、修士課程共通科目を受講する。授業題目は「現代における学校教育の課題」文化・科学・芸術の現代的成果の最先端と子ども青年の発達をつなぐ」である。今日の学校教育が直面する課題を知り、文化・科学・芸術の内容を、子どもの発達のためにどう取り入れていくかを学ぶ。学長の講義に始まり、外部特別講師を含め、文化・科学・芸術・教育と、本学ならではの豪華で多様なジャンルの教員が、知恵を集めて担当している。

専攻共通科目、専門科目、修士論文

専攻共通科目として、学校教育専攻では「学校教育研究方法論」と「子ども理解特論」を、教科教育専攻では「教科授業研究特論」を学び、多彩な専門科目では、理論とともに実践事例を交えた教育内容によって学びを深化させ、最後に修士論文へと昇華させる。

なお、修士課程と専門職学位課程(教職大学院)は、相互に受講が可能となっている。(単位制限あり)

特色ある教育プログラムの展開

「地域と伝統文化教育プログラム」ほか

修士課程では、すべての院生が受講できる特色あるプログラムとして、「地域と伝統文化教育プ

大学の取り組み

ちよつと違う教職大学院の教育実習

教職開発講座教授 安藤 輝次

野球、冬ソナ、メジャー、ケロロ軍曹、クイズヘキサゴン、ミュージック・ステーション、ニュース、ドラエもん。

これは、年輩の人(実は現職教員で教職大学院生)が中学一年の教室で見ている(写真①右)、「思いつき自己PR」と題するシートに記された、「よく観るTV」の中で挙げられたものである。その向こうにいるのが学部卒の院生。さすが現職教員は、目の付けどころが違う。教室の掲示物から一人ひとりの子どもの特性を捉えて、その子の学びと関連づけようとする。学部卒の院生は、その学び方を見習って自然に学ぶようになる。もちろん



写真①

授業で気づいた事柄は、院生が所定の用紙にメモをしており、教室の前後からビデオ撮影をして記録に残す。そして放課後に、写真②のように、Q&Aの会がある。この写真は、小学校の授業を参観した後のQ&Aの会だが、事前に教職大学院教員を交えた検討会がある。だから、Q&Aでは十分考え抜いた質問を投げかけることができる。聞き方次第で、答える方も快く答えたり、そうでなかったりするが、院生はそこら辺の心得もできるようになる。

教職大学院一回生は、5月から6月にかけて週一日(小学校は木曜、中学校は火曜)、このように一日かけて授業を見て検討する。現職院生も小・中学校の両方に行くこと、これまで異校種の訪問がほとんどなかったのが、「視野が広がった」という声も多い。

私たち教員は、教育実習に並行して「授業省察」「アクション・リサーチ」「ポートフォリオ」「ケース・スタディ」を受け持つ。これによって院生は、学校で見聞きした事柄と学問的研究とを関連づけていく。

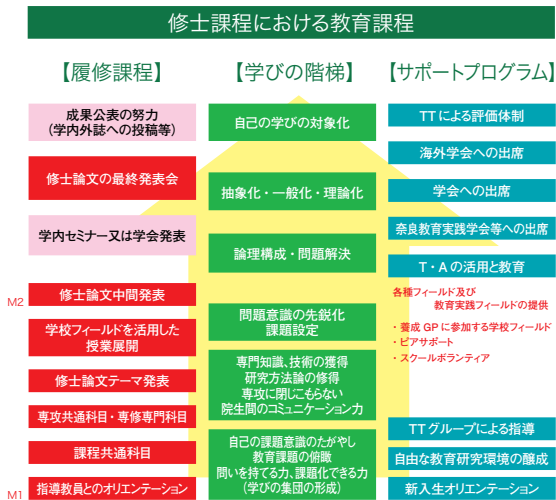
例えば、「アクション・リサーチ」の授業では、Q-U(学級経営の現状と改善法を示す評価法)を習い、その考え方を教科指導の根底にある学級経営のあり方に見出す。「ケース・スタディ」の授業では、科学の知よりむしろ臨床の知ではどうなるのかと考え、「授業省察」では、個々の授業に即して評価したり、改善案を出したりする。そして、「ポートフォリオ」の授業において、学びの歩みを辿って、成長や変容を可視化するのである。

院生は、教育実習や大学での授業の概要、気づきなどを、貸与のノートパソコンを使って、デジタル・ポートフォリオ(他の教員や院生もアクセス可能)に書き込む。だから、すべての院生のテックノロジーの力もアップすることは間違いない。そして教職大学院生は、10月の学校問題の組織的対応を学ぶ教育実習、二年次前期の自分のテーマに沿った課題解決型の教育実習へと進んでいく。

今、院生でホームページを作ったり、「院生便り」を出したりする計画が進められている。大学祭へも出展予定である。皆さんもこのような教職大学院に来て、一緒に学びませんか。



写真②



ロケラム(平成19年度大学院教育改革支援プログラム採択)を新しく展開中である。世界遺産と環境に恵まれた教育系大学院という、本学だからこその教育プログラムである。専攻・専修に関わらず、本学に学ぶ多くの院生に受講を薦めたい。その他、「幼保統合の保育実践知教育プログラム」(平成19年度専門職大学院等教育推進プログラム採択)など、充実したプログラムが準備されている。

平成20年度大学院改組は、新修士課程と教職大学院の新設としてひとまず決着を見たが、改革の努力は続いている。奈良教育大学大学院で院生が何を学び、どのような力量をつけて修了していくかが重要なのである。

大学の取り組み

地域連携による 教員免許状更新講習試行について

免許状更新講習実施検討プロジェクト副座長

藤田 正

1. 教員免許更新新制導入と

奈良教育大学の役割

平成19年6月に教育職員免許法が改正され、平成21年度から教員免許更新新制が導入されることになりました。制度導入後に授与される免許状については10年の有効期間が、これまでの免許状については10年ごとの修了確認期限が各々定められ、該当期限までに免許状更新講習（必修領域12時間と選択領域18時間の計30時間）の受講・修了が必要とされました。

かねてより奈良教育大学は、奈良県における中核的な教員養成機関としての役割を果たすとともに、大学院への現職教員受け入れ、10年経験者研修、学校経営研修などの教員研修への取り組みを進めてきました。この実績を踏まえて、免許状更新講習についても、本学が中心となって開設する必要があるとの認識のもと、21年度からの本格実施において、必修領域に関しては奈良県内全教員の受講受け入れを行い、選択領域においても相当数の受講受け入れを行うことを基本的な方針として検討しています。

その一方で、教員のニーズに応じた多様な講習が実施できるよう、奈良県教育委員会及び県内大学と、19年度から免許状更新

2. 奈良県内大学間での連携と

「試行講習」実施に向けての取り組み

講習に関する情報交換と協議の場を持ち、連携を図っています。県教育委員会提供の資料によれば、奈良県では毎年1300人ほどの受講者が見込まれています。

本年度は、文部科学省の委託を受けて、奈良県内の奈良女子大学、畿央大学、帝塚山大学、天理大学、大阪樟蔭女子大学、奈良芸術短期大学、及び奈良県教育委員会との連携協力のもと、試行としての更新講習（以下「試行講習」）を実施することになりました。今回の試行講習では、県内の他大学との連携・協力により、それぞれの大学の特色を活かした多様な講習が開設されることになっています。

試行講習については下記の表の通りです。

領域	開設日	開設講座名	主な対象	会場	受講人数	時間数
必修	7/5・6（土・日）	教育の最新事情	全教員	奈良教育大学	100人	12時間
選択	7/12（土）	教育内容の研究（「表現」を中心に）	幼稚園教員	大阪樟蔭女子大学（関屋キャンパス）	20人	6時間
選択	7/12（土）	心理学の視点から	全教員共通	大阪樟蔭女子大学（関屋キャンパス）	50人	6時間
選択	8/11（月）	教育内容の充実（中高美術教員用）	中高美術教員	奈良芸術短期大学	20人	6時間
選択	8/11（月）	社会科の授業内容への方法的接近	中高社会・地歴・公民教員	奈良教育大学	40人	6時間
選択	8/12（火）	中高国語科の指導と教育内容の充実	中高国語教員	奈良教育大学	50人	6時間
選択	8/13（水）	中高理科の指導と教育内容の充実	中高理科教員	奈良女子大学	30人	6時間
選択	8/13（水）	幼児の発達と教育	幼稚園教員	奈良教育大学	40人	6時間
選択	8/18（月）	教育内容の充実（全教員共通）	全教員共通	奈良教育大学	100人	6時間
選択	8/19（火）	教育内容の充実（小学校教員用）	小学校教員	奈良教育大学	50人	6時間
選択	8/20（水）	新教育課程における小学校教育	小学校教員	畿央大学	50人	6時間
選択	8/20（水）	中高保健体育科の指導と生徒指導	中高保健体育教員	天理大学（体育学部キャンパス）	30人	6時間
選択	8/20（水）	特別支援教育の当面する課題	特別支援教育関連教員	奈良教育大学	50人	6時間

写真で見る

大学120年

その2 大正・昭和期

明治21（1888）年に創設された本学は、本年、120周年を迎えます。11月22日には記念式典が行われ、他にも記念誌編集や記念講演などの記念事業が計画されています。明治期、大正・昭和期、平成期の三回に分けて、「写真で見る大学120年」をお届けしています。今回はその第二回、大正・昭和期です。

明治31（1898）年に、師範教育令により、奈良県師範学校と改称します。明治35年に女子部が設けられ、三年後の明治38年には奈良県女子師範学校として独立します。大正期は、この「師範学校」と「女

子師範」とで幕を開けます。更に、大正10（1921）年には奈良県実業補習学校教員養成所が開校し、「師範学校」の整備と拡充の時代を迎えます。

写真①は大正5年のもので、「秋期陸上運動会クラス優勝記念写真」とあるものです。白い服の中に立つ4人が選手で、周りがクラスメートなのでしょう。一方教員の方は、大正2年のものとして、「師範学校職員一同」と題する写真②があります。

この頃の写真には、授業風景を撮影したものが多く見られます。写真③は、理科実験風景、写真④は柔道練習で、いずれも大正2年のものです。よく見ますと、全てポーズが撮られています。まだまだ、スナップ写真という時代ではないようです。同様に、写真⑤は女子師範の様子を撮影したもので、音楽の授業風景です。

昭和18（1943）年、奈良県師範学校と女子師範学校は統合・官立移管され、奈良師範学校の男子部・女子部となります。奈良県実業補習学校教員養成所は、昭和10

年に奈良県立青年学校教員養成所と改称され、昭和19年には奈良青年師範学校として官立移管されます。二つの師範学校が統合して、奈良学芸大学が発足するのは、大戦後の昭和24（1949）年のことです。昭和初期の写真は少なく、写真⑥は、女子寄宿寮での「静座」を写したもので、當時を語る貴重な一枚と言えるでしょう。

120周年記念事業については、本学ホームページ、または秘書・企画課（電話0742-2719104）にお問い合わせください。



①



②



③



④



⑤



⑥

学校現場の課題に 応えるために

教職開発講座 准教授 粕谷 貴志

■あなたはどのタイプですか？

「朝、少し離れた所を歩いていた友達に『おはよう！』と声をかけたら、そのまま行ってしまった。その時あなたはどのタイプですか？」

タイプ1…追いかけて行って「何ぼんやり

してるの？おはよ！」と言う。

タイプ2…まあいいかあ、とそのまま。

タイプ3…ひよっとして怒ってる？私、何

か気を悪くさせるようなこと
したかな…と一人反省会。

授業で学生たちに聞くと、ちゃんと3つのタイプに分かれます。どのタイプでもその人の良さにつながる場所があり、普通特に問題になることはありません。その根底に、「そこそこ価値のある自分」「人は応えてくれるもの」と思える自己や他者への信頼感があれば良いのです。

このような個人差は、これまでの人との関わりの中で遂げてきた、心理社会的発達の一側面を表していると言われます。

■近年の学校現場の課題とは？

近年多くの学校が、不登校やいじめ、学級崩壊、学校の荒れ、非行など多くの課題

に直面しています。私は、児童生徒の心理社会的発達を捉える内的作業モデルに焦点を当てて、これらの問題の要因や解決のために必要な、心理教育的援助を明らかにする研究をしてきました。これまでのところ、近年の学校現場の問題とつながる児童生徒の変化は、地域や家庭の変化の影響を受けた心理社会的発達の問題を含んでおり、学校はその変化への対応を求められていること。そして、成果を挙げている学校は、既に現在の児童生徒の発達の課題に応える実践を行っていることなどが見えてきています。

所属する教職大学院は、現在の教育課題に対応できる、実践的指導力の育成に取り組んでいます。私自身も、現在の教育課題の解決につながるような、現場に役立つ研究ができればと思っています。



連携協定校での実習の様子

大学レベルの英語

英語教育講座 講師
パーキンス・ロバート

■伝統英語教育の局限性

大学レベルの学生は、既に伝統的な常設英語教育を少なくとも6年間も受け、さらに早い段階で英語教育を受けた人も少なくないと思います。しかし、これほど語学学習をしたにも関わらず、多くの学生はまだ、英語の基本的な会話レベルにも達していません。

問題を解決するための従来の教授方法だと、単にテストや教科書を増やし、語学学習を現実世界からさらに離れる方向に持っていくています。これは、今の学生たちが語彙力を持ちながらも、簡単に方向を聞く質問さえできない現状を作り上げた、失敗と言えるプロセスの続きとしか思えません。

大学レベルの学生は、英語に精通できるようになるツールを持っています。しかし、どの言語でもそうですが、本当にマスターするためにはもっと日常的に、校内・校外ともに多く使用し続けなければなりません。

■関連性を重視する

本当のコミュニケーションは、例文の型にはまることがめつたになく、もつとばらばらでもつと複雑で、混乱していたりします。だから、もし学生たちがもつと実用的な方法を見つければ、今までの抽象的な学習世界から、本当の現実世界へ踏み入ることができるよう。

現代の教育事象を 社会学する

学校教育講座 准教授
渋谷 真樹

■ゼミの風景

教育社会学の研究室では、毎週月曜日の午後にはゼミを行っています。中には、多文化共生社会に向けた教育の現状やあり方について研究している学生がいます。在日コリアンや留学生としての経験を踏まえながら、外国につながる子どもたちを支援する、地域の教育活動を調査しています。

また、大学教育について研究している学生もいます。大衆教育社会の大学教育の意義や、教員養成大学における大学と職業との連関など、本学にとっても重要な課題に、学生の視点から取り組んでいます。

■卒業生・修了生の今

卒業生や修了生の多くは、小学校の教員になっています。和歌山県に関しては、二年連続で教員採用試験に合格者が出たことが研究室の自慢です。

先日、卒業生が訪ねて来てくれました。アメリカの高校を卒業したおしゃれな彼は、校則を巡る生徒指導について、中学校の先生方にインタビューをして卒業論文を書きました。そんな彼が今は、授業中はジャージで、時折隣の教室にも響き渡



話し手が話し、聞き手が聞いて、それに関連する質問をして、言葉の意味を確かめます。『流暢』とは、辞書や教科書やインストラクターに頼ることなく話をし、意味のある質問をしつつ答えを消化し、またそれに反応していくことなのです。

■より良いテクニック、より良い結果

学生たちが英語と接する時間は、週一回の90分のクラスだけでは不十分過ぎです。時間を延ばす有効な方法の一つとしては、効率の高いデジタルテクノロジーを駆使して、学生たちのために英語スピーキングプログラムを作成し、もつと便利かつ実用的な情報交換を実現することです。

この方式を用いることで、学生たちの語学スキルが高められ、それを現実世界で活かせることに彼らは感心するでしょう。この方式の最終効果としては、学生たちに生きた英語へのアクセスを広げることができるようになります。デジタルテクノロジーが伝統的な教授方法と融合する時に、英語はもう概念ではなく、現実となるのです。

教育現場に 生かせる実践力を

教職開発講座 講師 松井 秀史

■新たな学びのスタート

高度な専門性と実践力を兼ね備えた教員の養成を目指し、教職大学院がスタートして二ヶ月余り。多彩なカリキュラムやデジタルポートフォリオの導入などにより、院生の皆さんは、これまでとはひと味違う学びに積極的に取り組んでいます。

私の担当する「学校組織とアカウンタビリティ」では、学校組織のあり方や学校教育の現場で起こり得る、子どもたちに関わるさまざまな課題について、国の施策の方向性も踏まえながら、議論やプレゼンテーションなどを通して、アカウンタビリティを果たすための実践的な手法を研究しています。

受講されているのは五名の現職教員院生の皆さんで、課題意識をしっかりと持たれており、その重みを感じながら授業を進めています。

■分析力・発想力が実践力を高める

授業では、事例を通して学ぶことを大切にしています。院生の皆さんには、どのような事象であれ、それぞれの事象には固有の背景があることを認識し、多面的に分析を加えながら、「自分ならどうするだろう



授業風景



ゼミの風景

る大声で、子どもたちを指導しているとのことでした。

■教育社会学から教室へ

教育社会学は、一見教育の現場や実践からは遠い印象があるかも知れませんが、しかし、現代社会における教育の現象を社会の中に位置付けて捉える視点は、子どもに向き合い、明日の授業の準備に追われる日々の中でこそ、生きてくるのだと考えています。ホットな心とクールな頭をもつて、責任をもって教育に携わっていく研究室でありたいと思っています。

留学生レポート

ルーマニアでの半年間

総合教育課程生涯学習コース 4 回生

手代木 丈伸

from Romania



新年を迎えて友人と

■直感を信じて

私は、2007年8月末から2008年2月末までの半年間、ルーマニアのブカレスト大学に留学しておりました。留学先をブカレスト大学に決めた際、多くの友人・知人が私に「なぜルーマニアなの?」という質問をしました。正直、自分自身にも明確な理由はありませんでした。ただ、他の人が留学しそうにない所がいい、小学生の頃好きだったサッカー選手がルーマニアのハジという選手だった: などというこじつけのような理由ばかりで、ほとんど私の直感が主な理由でした。また、自分の専攻や将来のことを考えると、英語圏の国などへ行くのが正解だったかも知れません。しかし、留学生生活を終えてみて、私の直感は間違いではなかったと思っています。

■刺激的な日常

実際の留学生生活は毎日非常に充実しており、授業も授業以外のことも、良いことも悪いことも刺激的なことばかりで、毎日が自分の糧になっていくのを肌で感じる事ができました。特に授業外では、ほぼ毎日行われる友人とのパーティー、クリスマス、新年などなど、貴重な体験をすることができ、そして何より現地の人たちとの交流が、自分にとってかけがえないものとなりました。

この半年間は、自分の人生に大きな影響を与えるものとなりました。自分が留学できたのも、多くの方々のおかげです。心より感謝申し上げます。そして、これからもブカレスト大学と奈良教育大学との交流が続くことを願っております。

留学生レポート

日本留学の経験

特別聴講学生 (フランス・リヨン第3大学)

ビリオン ヴァンサン

from France

まなイベントが用意されています。例えば、高知まで見学に行ったり、歌舞伎を見たり、日本人学生とパーティーをしたり... というものです。そして、自分で行く場所を見物したり、日本人の友達を作ったりすることもできました。こういう経験をした結果、日本で楽しく暮らせるようになったと思います。

■異文化が理解出来ること

奈良教育大学では、いろいろな面白い授業を受けました。言語講義、文化講義、書道等を勉強することができ、フランス語の授業に出るチャンスもありました。これらの授業のおかげで、日本の文化や考え方を少しずつ理解できたと思います。私のいるフランスの大学には、日本人の留学生がいます。フランスに帰った時に、どんな方法でこの留学生を手伝ってあげればいいのか、今はよくわかりません。このような貴重な経験を与えてくださった先生方と日本人学生の皆さんには、本当に感謝しています。

■「留学」って勉強だけ?

留学生として一生懸命勉強するのは当然ですが、奈良教育大学ではさまざまな



寮でクリスマスパーティ (右端)

留学生レポート

日本での貴重な経験と留学生活

学校教育教員養成課程教育・発達基礎コース 2 回生

ティンティンヌエ

from Myanmar



左上 友人と一緒に
右下 短大の卒業式にて

私は、平成17年の3月に日本に留学してきました。日本に到着した日、初めて家族と離れ、海を渡って日本の空港に降り立った私は、日本に来たという興奮よりも、今からは一人で生きていかなければならないという不安で一杯でした。言葉も通じない日本での生活は、本当に心配でした。私が日本に来た時は梅の花が咲き、桜もほころび始める頃でした。本

当にきれいな春でした。しかし私には、初めて迎える日本の春は美しく見えませんでした。まだ慣れていない日本の生活、理解できない日本語、故郷への思いなどで、私の心は真冬のように冷たかったです。私は奈良教育大学に入学する前に、白鳳女子短期大学の総合人間学科というところで、日本語と日本文化コースを専攻しました。学長先生をはじめ、どの先生方も温かい愛情で私を迎えてくださいました。そのおかげで、何も心配することなく勉強することができました。白鳳女子短期大学では、日本語だけではなく、日本文化やさまざまな国の文化・習慣も学ぶことができました。地域の方々とイベントや交流会もたくさんあるので、毎日がとても楽しかったです。また、学園祭では店を出したり、ダンスをしたり、歌を歌ったりして、思い出がたくさんできました。

そして、平成19年の4月から奈良教育大学に入学し、今は教育・発達基礎コースの教育学を専攻しています。奈良教育大学でも、先生方の温かい愛情の下で幸せな留学生活を送っています。私には「教師になりたい」という強い夢があるので、勉強に励んでいます。新しい友達もたくさんできて、充実した日々を過ごしています。振り返ってみると、3年半という期間はあっという間でした。その中で、楽しかったことや困ったこともありましたが、すべてが懐かしいこととして、絵のように思い浮かびます。これからは新たな経験にチャレンジし、自分を磨いていきたいと思っています。最後に、好奇心・自信・勇気・忍耐という言葉を抱き、夢に向かって頑張っていきたいと思います。

留学生レポート

アメリカ留学体験記

総合教育課程生涯学習コース 4 回生

小野田 奈央

from USA



ニューヨーク旅行にて

■期待と不安

幼い頃から異文化に興味があり、留学することが私にとって「夢」を叶えることでした。語学を習得し、異文化を理解するという期待に満ちあふれていた私でしたが、いざ出発となると不安ばかりが押し寄せてきました。十分な語学力もない私がアメリカで、しかもたった一人で本当に9ヶ月間もやり遂げることができるのだろうか。そんな不安と期待が混ざり合った気持ちの中で、アメリカ留学がスタートしました。

■言葉の壁、文化の壁

私の留学生活は、最初から楽なものではありませんでした。その一つが言葉の壁です。自分の思っていることが伝えられず、相手の言っていることも曖昧にしか理解できず、毎日がもどかしくて仕方

なかったのを覚えています。また、違う国で違う文化を持つ人々と接するということは簡単なことではなく、文化の違いに悩んだことも少なくありません。初めの頃はなかなか自分から話すこともできず、ただ笑うことしかできなかった私ですが、そんな自分を変えようと思い、うまく話せなくても自分から何か話しかけるようにしました。今思うと、この時の「悔しい」という気持ちですが、留学生活で私を成長させてくれたのかなと思います。

■留学で得たもの

9ヶ月という短い期間ではありましたが、本当にいろいろなことを経験することができました。友達と行ったアメリカ東海岸旅行、初めてのクラブやバー、文化交流会。もちろん楽しいことばかりでなく、辛くて泣いたこともたくさんありました。しかし私は、この9ヶ月で本当にかげがえのないものをたくさん得ることができました。世界中にできた友達、出会った人々、経験したこと、文化を理解する気持ち、そして人を理解しようと思う気持ち...。今後この留学を私のこれからに活かし、繋げていきたいと思っています。すべての関わった方々に心から感謝しています。

想いは 必ず伝わる

三郷市立三郷小学校
城本 雅司

(平成18年3月教育学部卒)

瞬間の一年目

一年前の春、何をするのも新鮮で、毎日子どもたちと出会うのが楽しくて仕方がない日々を送っていました。

昼休みにCDをかけてダンスを踊ったり、給食時間には家でのことや遊びなどについて、たくさん話をしました。遠足や社会見学移動中には、一緒に歌を歌ったり、たわいもない話で盛り上がったこともありました。放課後、教室で一人作業をしていた時に寂しさが込み上げてきたこともあり、それには自分自身驚きました。

もちろん、毎日が楽しいことばかりではなく、ときには辛い思いをしたこともあります。子どもがどうしても許せないことをしたので、「それはいけないこと」ということを伝えようと怒ったのですが、それがうまく伝わらずに言い争いになったことがありました。また、私の指示不足で、子どもたちがどう行動したらいいのかわからず困らせてしまったり、授業が準備不足のため反応が悪く、わからない顔をされたこともありました。そんな時は、子どもたちに申し訳ない気持ちでいっぱい

になり、途中で投げ出したくなる瞬間もありました。それでも諦めることなく続けてこられたのは、子どもたちの行動が変わり、「伝えたいことが伝わった」という実感を持てたからでした。

秘めた力

二年目になり、少しずつわかってきたことは、子どもたちの持つ力の大きさです。子どもたちは、私が思っていた以上に責任感があり、行動力もあります。任せれば一所懸命頑張ってくれるし、褒めればとても喜んで、さらに頑張ってくれるようになります。

その声を聞くために

まだまだ思い通りにいかない時もあり、失敗をする時もあります。ですが、去年の一年間で学んだことをもとに努力を重ね、「今日の授業は楽しかった」「またやって」といった声があふれるようなクラスを目指し、これからも励んでいきたいと思っています。



ひと・あれ・これ

未熟な縁の下の力持ち

日本ビー・ケミカル株式会社
正木 祥子

(平成19年3月教育学部卒)

私の仕事

現在私は、プラスチックコーティング専門の塗料メーカーで働いています。製造される製品のほとんどが、自動車用部品の塗料として利用されています。

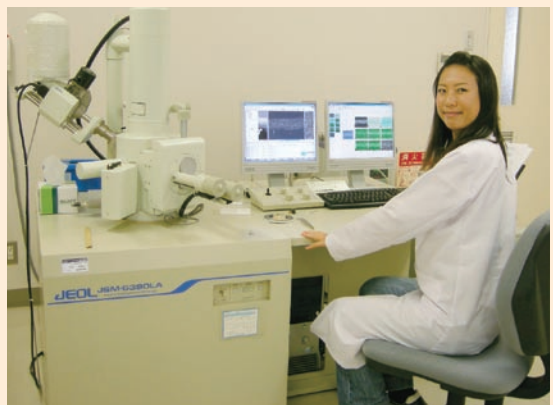
私はそこで、塗料の分析を日々行っています。具体的には、お客様の所で塗装をして不具合が発生した場合、さまざまな装置を駆使して原因を突き止めるというものです。

分析の仕事で扱う不具合のほとんどは凹凸なのですが、それらはほぼ約数10マイクロメートルという大きさのものばかりです。実際に仕事に取りかかる際には、非常に細かな作業が必要とされるため、働き始めの頃は、不具合の箇所を見失ったり誤って傷を付けたりすることのないよう、集中力を保つのが大変でした。

慣れるための一年目

社会人になってから、一年が過ぎるのに実は12ヶ月もかかっていないんじゃないかと思うくらい、時間が経つのが早く感じました。

思えば、昨年の一年間は慣れるため



分析装置の前にて

の期間であったのだと思います。見知らぬ土地での生活、仕事、新たな人間関係等、全てにおいて私の環境が変わりました。慣れ親しんだ関西を離れての生活は、初めは辛い部分もありましたが、喉元過ぎればすね。今ではずいぶんと慣れてきました。

仕事においても、分析装置の取り扱いは一通りこなせるようになってきましたが、複雑なサンプルになると途端に手こずってしまいます。そうなる先輩に助けを求めるのですが、あつという間に分析を終える手さばきは見事で勉強になります。

工作上、私はお客様に直接お会いするということはありませんが、分析結果はお客様への報告として利用されるので、縁の下の力持ちとして自分の技術を磨いていきたいと考えています。また、少しでも先輩に近づけるよう、「進歩」の二年目にしたいと思います。

課外活動共用施設完成

広がるサークル活動

学校教育教員養成課程言語・社会コース4回生

文化会会長 旧田 克也

課外活動共用施設完成おめでとうございます。施設の完成は、我々文化会にとっても非常にうれしいニュースです。これからのサークル活動のさらなる活性化のため、ぜひこの施設を積極的に活用していこうと思っています。

今回の共用施設完成までには、長い道のりがありました。この奈良教育大学は、少人数制をウリとしている小規模な大学ですが、サークル活動はそれに比べて活発であると言えます。しかし、大学の敷地の狭さがそのサークル活動を制限することがしばしばあります。また学内の施設も年季の入ったものが多く、サークルボックスをはじめとして、使用に耐えないものがちらほら存在します。そのため、サークルによっては十分な活動環境を確保できず、部室もないため、やむなく活動の際に教室を借りるサークルもあります。また大きなサークルの中には、活動場所が小さいため、それぞれの部員に十分な活動時間を持たせることができないと嘆くサークルもあります。サークルが活動する場所が慢性的に不足していたのです。



こういった問題の改善は、私が大

ウインドアンサンブル

サークル活動を通じて学んだこと

総合教育課程文化財・書道芸術コース3回生

天池 規夫

私たち奈良教育大学ウインドアンサンブルは、総部員数約50人で活動を行っています。「ウインドアンサンブル」と言ってもあまり耳なじみがないかも知れませんが、要は吹奏楽部のことです。

このサークルには顧問の先生はいます。が、学生主体で運営しています。演奏会を行う際には、ホールとの打ち合わせやレンタカー・トラックの手配、また、合宿を行うに当たって旅行会社の方・旅館の方との打ち合わせ等、高校の頃であれば先生方がしてくださっていたことも、すべて学生が行います。多種多様な仕事があるのですが、係を複数設けたりしながら組織立て、部員みんなで一丸となって運営を行っています。

ただ、やはりこれだけの人数で活動しているの、当然意見のすれ違いや衝突も時にはあります。しかし、それは「良いサークルを作ろう、楽しもう」という意志があるからこそであり、その結果目標に到達できた時の喜びはとても大きなものとなります。ゆるぎない意志を持っていれば、たとえつらくても、また立ち上がることもできると信じています。そ



夏に行われた合宿

幼稚園

大学との連携をいかした幼児教育

附属幼稚園教諭 山本 祐子

毎週木曜日は、虫はかせの日

附属幼稚園の現在の園長は動物学の専門家で、自然環境教育センターの教授でもあります。子どもたちからは「虫はかせ」と呼ばれていて、園内で見つけた虫や草花、キノコなど、珍しい自然物を見つけると、はかせに聞きに行きます。週に1回の「虫はかせの日」を、子どもたちは楽しみにしていて、「この虫何だろう」「これも聞いてみたい」と、「虫はかせ」に教えてもらいたいことをたづねたりためて待っています。そして「これクチベニマイマイついで



鹿の下あごにははがいないんだよ

うねん」などと、保育者も驚くような専門的な言葉を使ったり、虫の細かい模様や特徴を捉えようと、真剣なまなざしを向けていたりしている子どもの姿を見ると、実際に触れて体験することが子どもの力になっていくのだと、その大切さを改めて実感します。

虫はかせの講義！

生き物や自然に対する興味の幅を広げて欲しいという思いから、年長組の子どもたちを対象に、「はかせ」に話をしてもらう機会も設けています。「ダンゴムシの足は何本？」「ザリガニはどうやってご飯を食べるの？」子どもたちにとって身近な生き物をテーマにした「はかせ」の話は面白く、子どもたちも真剣そのもの。子どもたちは「はかせ」ならではの専門的な話を喜び、真剣に聞き入っています。本物に触れ、心が揺さぶられる経験を大切にしたいと思



木の中にいるこの虫なあに？

たいと思っています。

大学施設や人的環境を生かして

その他に、大学附属という本園の特色を生かしたさまざまな保育実践をしています。教育実習だけでなく、保育現場での経験を積みたいと希望する熱心な学生

小学校

子どもの健やかな成長に向けて

附属小学校教諭 小畑 治

はじめに

子どもたちが路地や空き地にみんな集まり、日が暮れるまでたくさん遊んでいた風景は、今や昔話になりつつあります。現在は、遊ぶ場所が少なくなつたばかりでなく、安心して外で遊ぶことさえ難しくなつてきています。そのため、子どもたちの体力・運動能力の低下、健康への悪影響、さらには情緒の不安定や社会性の育ちに欠けといった問題が看過できない状況にあります。このような状況の改善のために、附属小学校では大学の保健体育講座と連携をして、



バルシューレマーク

バルシューレとは

「バルシューレ」という言葉はドイツ語ですが、英語で言う「ボールスクール」すなわち、ボールゲーム教室という意味です。これは、大学が1997年から交流している、ハイデルベルク大学との共同研究によって導入された「子どもボールゲーム指導プログラム」です。子どもたちが楽しく取り組めるゲームがたくさんありますが、特定の球技種目に取り組むのではなく、どの球技種目にも共通する基本的な動きを大事にしています。いろんなボールを使ったり、さまざまなゲームに楽しく取り組んだりしながら、自然

と基礎的な運動能力が身につくように工夫されている素晴らしいプログラムです。

取り組みの様子

附属小学校では、毎週火曜日の放課後に小学校の体育館で『バルシューレ』をしています。指導には、大学の保健体育講座の先生や大学生が毎週来てくれます。子どもたちからの人気も高く、毎回汗をいっぱいかいてゲームを楽しんでいます。保護者からも、塾ではなく学校が開催してくれることを喜ぶ声を聞いています。

おわりに

昔のような遊び場所を作って、日が暮れるまで遊ぶことは困難です。しかし、昔を懐かしむのではなく、今、できることにチャレンジすることが大切です。大学と附属小学校が手を取り合って、子どもたちの健やかな成長を願い、研究と実践を進めていきたいと思います。



ボールを追いかける様子

中学校

ESDの理念を学ぶ 教科活動と学校行事

附属中学校副校長 植村 啓介

本校では、2006(平成18)年度から研究テーマとして、五ヶ年計画の「ESDの理念に基づく学校づくり」を掲げています。ESD(Education for Sustainable Development)について早くから研究されている奈良教育大学の田淵五十生先生には、関連のシンポジウムへの参加や、世界遺産教育の立場から本校の「奈良めぐり」等の活動の発表を通してご協力やご指導をお願いしています。昨年は、教科との関連性を考えた研究会も開きました。本年度は、教科と教科外活動の実践を再構築していく教育研究の3年次で、サブテーマは、ESDの理念を学ぶ教科活動と学校行事です。

この紙面をお借りして、附属中学校の学校行事をESDの視点から紹介します。

一年生は、五月の野外活動として、二泊二日で国立曽爾青少年自然の家に行きました。夜のキャンドルファイアでは、ほのかな明かりの中で、御杖村真菅の幽玄で迫力のある獅子舞を見せていただき、村に伝わる伝統文化を鑑賞することができました。

二年生は、五月に二泊三日で、答志・鳥羽・伊勢地方への臨海実習に出かけました。

一日目の活動は、海の博物館での学習と漁家訪問です。学芸員平賀さんのボウの話をはじめ、博物館では、伝統的な漁業とその背景に流れる漁村の信仰がよくわかり、

自然やいのちの営みをよく捉えた先人の知恵と、共同体の工夫を学ぶことができました。それは夜の漁家訪問で、直接漁師さんから聞き取る中で、より強く実感できたと思います。

二日目は、浮島で多様な磯の生き物たちの観察に夢中になっていました。新しい試みとして、答志中学との神楽を通じた舞の交流会を行いました。夜の講座は、昨年までの寝屋子と漁協、海女の話に、新たに答志と奈良をつなぐ歴史講座、伊勢湾の環境に関わるお話を二講座持ちました。

三日目の活動では、「水系」というテーマで捉える試みをし、宮川河口の大湊の干潟にある、碎波帯ネットでの生物調査を行いました。ESDという切り口から、臨海での体験が、地域や自分の未来の生き方につなげていく学びへと、広がっていったのではないかと考えています。

三年生は、四月に三泊四日で沖縄修学旅行に行きました。

一日目は、平和ガイドさんの案内を聞きながら沖縄平和祈念資料館に行き、その後、魂魄の塔の前で平和宣言を行い、次にガマ体験を経て、平和の大切さを確認しました。夜は、傷病兵の世話をしてもらった方から当時の生々しいお話を伺い、事前学習だけではわからなかった戦争の悲惨さ、平和の大切さ

が、保育ボランティアとして子どもたちに関わることもあり、いろいろな人と接する中で学びも多いと考えています。

また、大学の図書館で開設されている「えほんのひろば」の利用や、大学の研究室を訪問する機会を設け、隣接する大学を活用した豊かな生活を園児が楽しめるように工夫しています。

を知ることとなりました。

二日目は、学生ガイドさんと、南部戦跡を中心に見学をした班、泡瀬干潟でエコツアーに参加した班、植物園に行った班、辺野古で地元のおじい「や」おばあ」と話をした班、宜野湾市でインタビュー活動に取り組んだ班、世界遺産巡りをした班、そして五組は小校の塔前で平和集会、さらに農業体験とさまでした。夜は会沢芽美さんの平和コンサートが開催され、生徒たちも朗読や歌で参加しました。

三日目は体験学習の日として、慶佐次川でのカヤックとマングローブ観察、三線、エイサー、紅芋農業体験等々、沖縄の自然と文化を満喫しました。

一年生は曾爾の二日間で、仲間と助け合ったり協力したりしながら、それぞれに成長して帰ってきました。二年生はESDという切り口から、臨海での体験が地域や自分の未来の生き方につながったのではないかと考えます。三年生の沖縄修学旅行では、現地での活動を通して、「平和の大切さ」を実感として知ることができました。宿泊行事は、学校では得られない貴重な経験ができる場です。

このように本校では、持続可能な未来のための教育として、「人権教育」「環境教育」「世界遺産教育」「平和教育」「他文化共生教育」に焦点を当てて、学校活動を行っています。



大学の 仲間たち

和名 コミスジ
学名 *Neptis sappho*
分類 タテハチョウ科
(鱗翅目, 昆虫綱)
翅開長 45～50mm



コミスジ

翅(はね)を広げると45～5cmぐらいの中型のチョウである。滑空と羽ばたきを繰り返して、ヒラ～ヒラ～という感じで緩やかに飛ぶので、簡単に捕獲できそうに思えるが、いざその気になってもけっこう捕獲しにくい。派手な翅色の特徴のタテハチョウの仲間であるが、このグループはすべて黒褐色地に白い「すじ」を持つ。その「すじ」の数や特徴がチョウの名前になっていることが多い。ちなみにこのチョウは、翅を広げると背面に3本の「すじ」が顕著であるうちの小型種ということで、「こみすじ」と名付けられている。裏面の地色は茶褐色と色合いが薄い、やはり3本の「すじ」が確認できる。

本学では、このチョウは5月初旬から10月初旬にかけて見られるが、7月の初旬や8月の終わり頃にはあまり見かけない。従って、おそらく年3回の発生であろう。本種の幼虫は、クスやフジなど本学内では珍しくないマメ科植物などを食べて育つので、当然本学内でも繁殖をしていると思われるが、私はまだ確認したことがない。越冬は終齢(幼虫の時に5回脱皮を繰り返すその最後の段階)幼虫で行うという。

(自然環境教育センター長 前田喜四雄)

URL

<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/index.htm>



奈良教育大学 広報誌

第28号 平成20年7月31日 編集/広報・情報公開委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学
〒630-8528 奈良市高畑町 TEL. 0742-27-9104 FAX. 0742-27-9141
<http://www.nara-edu.ac.jp> kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp